

私たちの大切な地域医療を守るために

く郡上市の今後の地域医療を

みんなで一緒に考えよう



▲大和医院
林院長

サービスイランス・ワクチンを活用した地域インフルエンザ予防対策

岐阜県では、2009年より、「岐阜県リアルタイム感染症サービス」の運用を開始しました。当院でも運用開始当初より参加し、インフルエンザ感染情報を取り扱うインターネットで報告しています。市内小中学校でも学校サービスイランスが実施され、学校内での感染者数の変化が報告されています。県内でも、インフルエンザ流行期には、サービスイランスにより、流行状況の把握がリアルタイムで確認でき、流行情報を迅速に伝達できるようになります。

今年もインフルエンザ2011/18シーズンが始まりました。毎年冬季になると流行が気になります。昨シーズンも学級閉鎖や集団感染が発生し、予防対策が重要な感染症となっていました。

最近は、海外への人の行き来や気候変動の影響のためか、時期外れの集団感染事例も発生するようになっています。今年は、梅雨期としては降雨量が非常に少なく、低温・乾燥した時期が続いた影響のためか、市内でも6月に突発的な集団感染事例を経験しました。

冬季を中心に流行するインフルエンザ感染ですが、昨今は国立感染症研究所が主体となり、「インフルエンザサービスシステム」による解析・公開が行われました。

●今冬の流行型は インフルエンザAH3?

ています。

岐阜県では、2009年より、「岐阜県リアルタイム感染症サービス」の運用を開始しました。当院でも運用開始当初より参加し、インフルエンザ感染情報を取り扱うインターネットで報告しています。市内小中学校でも学校

サービスイランスが実施され、学校内での感染者数の変化が報告されています。県内でも、インフルエンザ流行期には、サービスイランス

により、

流行状況の把握がリアル

タイムで確認でき、流行情報を

迅速に伝達できるようになります。

インフルエンザワクチンも、2

015年より以前のインフルエン

ザ株3種混合から、WHO推奨

のインフルエンザ株4種混合の製

造方式への変更が実施され、特

化が行われました。

今回は、国立感染症研究所か

ら2016/17シーズンの「今

冬のインフルエンザ」についての報

告も踏まえながら、今2017/18シーズンの流行が考えら

れるウイルス型及び今シーズンの

ワクチン株について考えてみたい

と思います。

医療を取り巻く環境は大きく変化し、特に私たち郡上市のような地域では、医療環境の維持が難しくなっています。そのような中で市民のみなさんの健康を守つていくためには、行政や医療機関だけでなく、市民のみなさんのご理解とご協力が不可欠です。そこで郡上市における地域医療の現状や課題等を広く知つていただくため、病院や医院の先生方にご協力をいただいて広報誌でお知らせしています。

第9回目となる今回は、大和医院 林淳弘院長に寄稿いただきましたのでご紹介します。

までのインフルエンザ流行が前年を上回り、感染者が前年同期の約2.5倍である豪州からのインフルエンザサービスイランスの解析

が弱いという事がありました。ところが、近年B型の中でも山形

研究所の解析では、昨シーズン2016/17の流行の主流は、A16/17の流行の主流は、A型のA/H3N2(A/H3亜型)と呼ばれるインフルエンザウイルス型であり、全体の約85%を占めています。その前シーズン2011/12の主流は、A/H1 pdm09/2009型が主流でした。2010/11亜型が主流でした。2014/15シーズンは、A/H3

亜型が主流であり、2011/12/A/H1 pdm09/2009型、2012/13/A/H3亜型が主流とされるのが妥当かもしれません。豪州でのA/H3亜型感染者年齢別では、80歳以上の感染者が多くなっています。

また、ここ数年は流行期後半になると問題が生じています。B型の流行です。インフルエンザB型は、2012/13シーズン以降は、A/H3N2型が主流でした。これで分かるように、この数年は流行期後半がB型の流行です。インフルエンザB型は、2012/13シーズン以降は、A/H3N2型が主流でした。これで分かるようになります。

このため、今年のイン

フルエンザワクチンは、

この2種類の型のA型

株が組成となります。

また、このパターン

から予想すると、今シ

ーズンは、A/H1 pdm09/2009型が流行する

と考えられます。

ただし、今シーズン

はこのパターンが崩れ

るかもしれません。こ

れは、既にインフルエン

ザが流行している南半

球で、今年1月～8月

このため、今年のインフルエンザワクチンは、この2種類の型のA型株が組成となります。また、このパターンから予想すると、今シーズンは、A/H1 pdm09/2009型が流行する

と考えられます。

国立感染症研究所によると、

ワクチン効果が高いのは約5カ

月間と報告されています。

手洗いやマスクによる基本的

な予防に加え、ワクチン接種やサ

ーベイランスの流行情報もうま

く利用しながら、今シーズン

もインフル

エンザの感染

から身を守る

ようになります。

（参考文献）国

立感染症研究

所「今冬のイン

フルエンザ

について（2016/17シ

(図1) 2013/14～2016/17シーズンのインフルエンザ週別検出報告数の割合

